

取材授業 於 上智大学



会社名: テクダイヤ株式会社
名前: 小山真吾氏 (代表取締役)
南谷真緒氏 (広報室)
取材担当学生: チェ ソンヨン、セイ カ、リ メイ、リク
ゲンセイ、ヨ イン、ト ウキン、タイ リ、
チョウ、キョク

取材日: 2018 年 6 月 21 日

創業以来の最も大きいチャレンジは何でしたか？

弊社は創業40年になります。ずっと右肩上がりというわけではありませんでした。毎年「今までにないことをさらに」と考えて新しいことに挑戦し続けているので、もしかしたら今やっていることが一番大きいチャレンジかもしれません。ただ、弊社は日本に100人、フィリピンに1000人という小さな企業です。その弊社が現在は大手米国通信企業やNASAと仕事をしており、これからは中国系の通信ネットワーク企業とも仕事をしようとしているわけです。そういった会社としっかりとパートナーシップを結んで、会社をさらにワンランク大きくするということが一番大きな挑戦と言えるかもしれません。

新しいチャレンジは1つに絞って取り組んでいくのでしょ うか？

弊社の場合、「こういう商品があったらいいだろうな」と自分たちでつくることもありですが、それやって成功する確率は30%くらいです。それよりも、「こういう技術があるなら、こういうものをつくって見たら？」他にやってくれる会社なんていないよ」というお客さまの声に答えてチャレンジを繰り返していたら、車、宇宙をやっていたように、お客さまの声が成功の秘訣になっています。もちろん、どういふところにもどのような技術が必要とされているのかと自分たちでマーケティングもしますが、お客さまの要求に答えていくほうが成功する確率が高いというわけです。なので、自分たちで「これだ」と決めるより、さまざまなお客さまに取材して、「こういうことをやってくれたら面白いんだけどな」といった要望を聞き出すことが成功のポイントになっています。

パンフレットに「人生、仕事だけなんて馬鹿らしい」とありますが、具体的に仕事以外にみんなをやっていることはありますか？

まず、「仕事だけなんて馬鹿らしい」というのは当たり前なことだと思います。いい仕事ができる人が真面目な人とは限りません。心の豊かさが大切なわけです。勉強だけできて人の気持ちに分からない人より、テストではいい点を取るのに遊びに行っているような、遊び上手の人のほうが格好いいでしょう。そういう人は人を引きつけるような、情報発信ができた、人の話を聞く力を持っていたり、魅力的な人物だと思うので、社員にもよく「仕事ばかりやっていちゃダメだ」と言っています。まず私ができることは、具体的にいうと、有給休暇を取りやすくしてあげること、残業時間を極力減らしてプライベートの時間をつくってあげることです。留学生であれば、自由に有給休暇を取れることで、旧正月にも帰省できると思います。弊社の有給休暇の取得率は89%、先月の全社員の平均残業時間は月あたり8時間です。それ以外には、山登り、飲み会、野球観戦、自転車など、みんなさまざまなイベントを行っています。



社員にとって仕事のやりがいはどんなところにありますか？

(南谷さん) 1人1人に任される仕事が大きいで、その分忙しくなりますが、毎日違った挑戦があることがやりがいにつながっています。1つの仕事を極めるというより、さまざまなことをやらせてもらえて、普段一緒に仕事ができないような人も会え、日々新しいチャレンジをしています。失敗もたくさんしますが、上司や先輩もいますし、「よし、また次に頑張ろう」と思うことができます。



(小山さん) 全て上から「あれをやれ、これをやれ」と命令しても、それはいずれがやることになってでしょう。ただ言われた通りにやるのではなく、自分で考えてクリエイティブなことをするところに人間らしさがあるわけです。それを若いうちからやってこそ将来立派なリーダーになるので、「失敗してもいいからやってごらん」と信じて任せようになっています。自分にかけてられた信用や期待に応えられたときはやはり気持ちがいいですし、僕もそうされたらうれしいと思うので、自分もそう過ごしたいし、社員にもそう過ごしてもらいたいと考えています。

就職を控えた留学生にメッセージをください。

外国人留学生と話す、「日本企業でうまくやっていけるだろうか」とすごく不安に思っている人が多いですが、もっと自信を持ってください。皆さんが日本に来たときには、日本人の友人をつくるために必死に日本文化に同化しようとしたと思います。ですが、企業は「日本人のような外国人」を求めています。企業が欲しいのは「日本文化を分かっている外国人」です。企業は進化・変化するために、組織の中が同質化、同じ人間の集まりになってしまうことを恐れます。そうなるてしまうと、もうそこから動けなくなるからです。「私はこうしたほうがいいんじゃないかと思う」と周りと異なる意見を出せることは、強みだ

ということですが。皆さんは祖国の文化を知っていて日本文化も分かるわけですから、学生時代は日本社会から浮くことが嫌だったかもしませんが、これからはあえて染まらないようにしてください。そして、祖国の文化をもつと知って、「日本のこういうところは遅れていると思います。中国ではこういうふうになっている」と指摘できるような存在になるほうが企業に必要とされます。日本への理解で日本人と勝負しようとしても勝てるわけがありませんが、「私は外国人ですけど、日本文化も分かっています」という戦い方をしたら、企業も欲しくなるはずですよ。「違う考え方を持っているけれど、日本のやり方も分かります」というところをアピールしてってください。

取材後のみんなの感想

- ・社長が外国人の私たちに「求めるもの」「思い」などを知ることができて有意義な時間でした。社長の一言は、今後自分が就活に向けて何を押していけばいいのか、その方向性を教えてくれたと思います。
- ・自分は今四年生で、今までの就活は企業毎に合わせて、ネットの日本人学生が書いた自己PR、志望動機を参考にしながらやってきました。しかし、小山さんの留学生のメッセージから、自分らしさ、留学生だからできることをアピールする重要性を認識できました。本当にありがたいです。